

並木舎五柳綴

増補雙級巴編

一孟齋芳虎画



錦橋堂
壽梓

^13
3774
4

下

^13
3774
3

上





増補雙級巴編

並木舎五柳綴

上
^13
3774
3



文久元年辛酉
冬霜月癸市

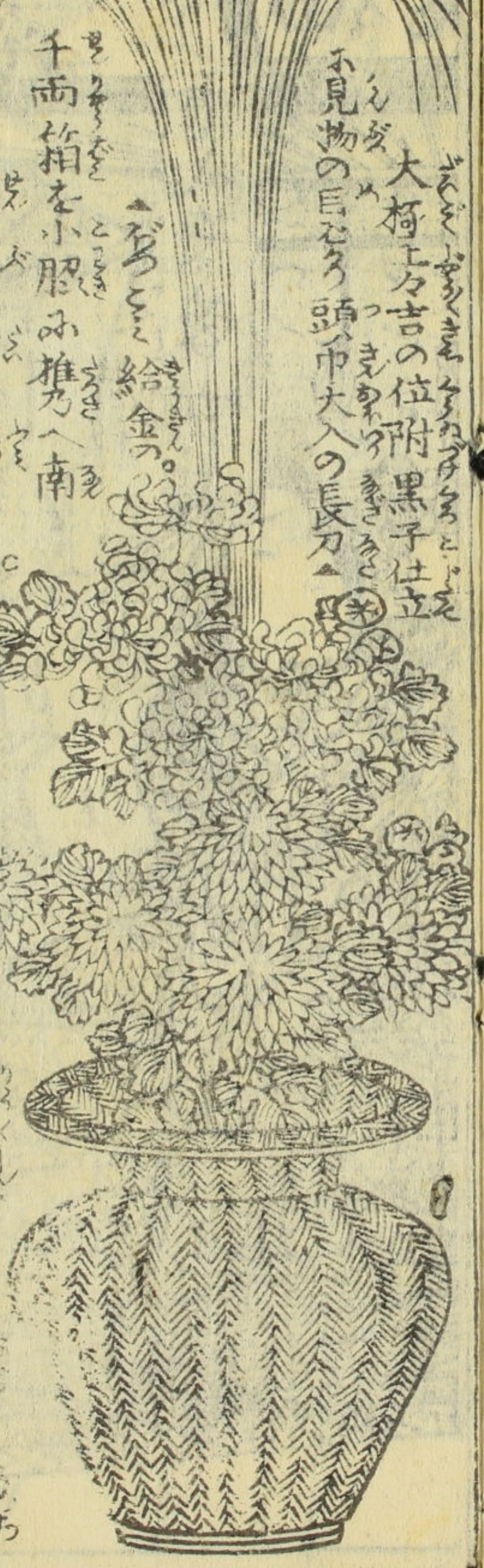
並木五柳の
ゆみ代り

假名垣魯文即題



千両の相を小服み携へ南
騰部基を踏るじ
名小大江都の花道へはじかり
たる梁上の君子ハ誰哉石川も彼
五右衛門み紛まる市川濱の真砂み尽せ
く脚色ハ深き金ガ淵雙級巴の替り
再び當る當吾の先例後日文説と櫻田ガ筆み耕を

粒々辛苦を橋本共筆の
如へ巻を重なる二編目
序み出升るハ先哲の声色つらひ
習ひと作者の見習ひ梓キガ後と
具負立み拙き文々の取うく
角を面み當て速る



大榎上々吉の位附黒子は立
不見物の巨むろ頭巾大入の長刀

魚目文 柳 雙級 増補
後 二編 上之巻
巴



山田屋藏板

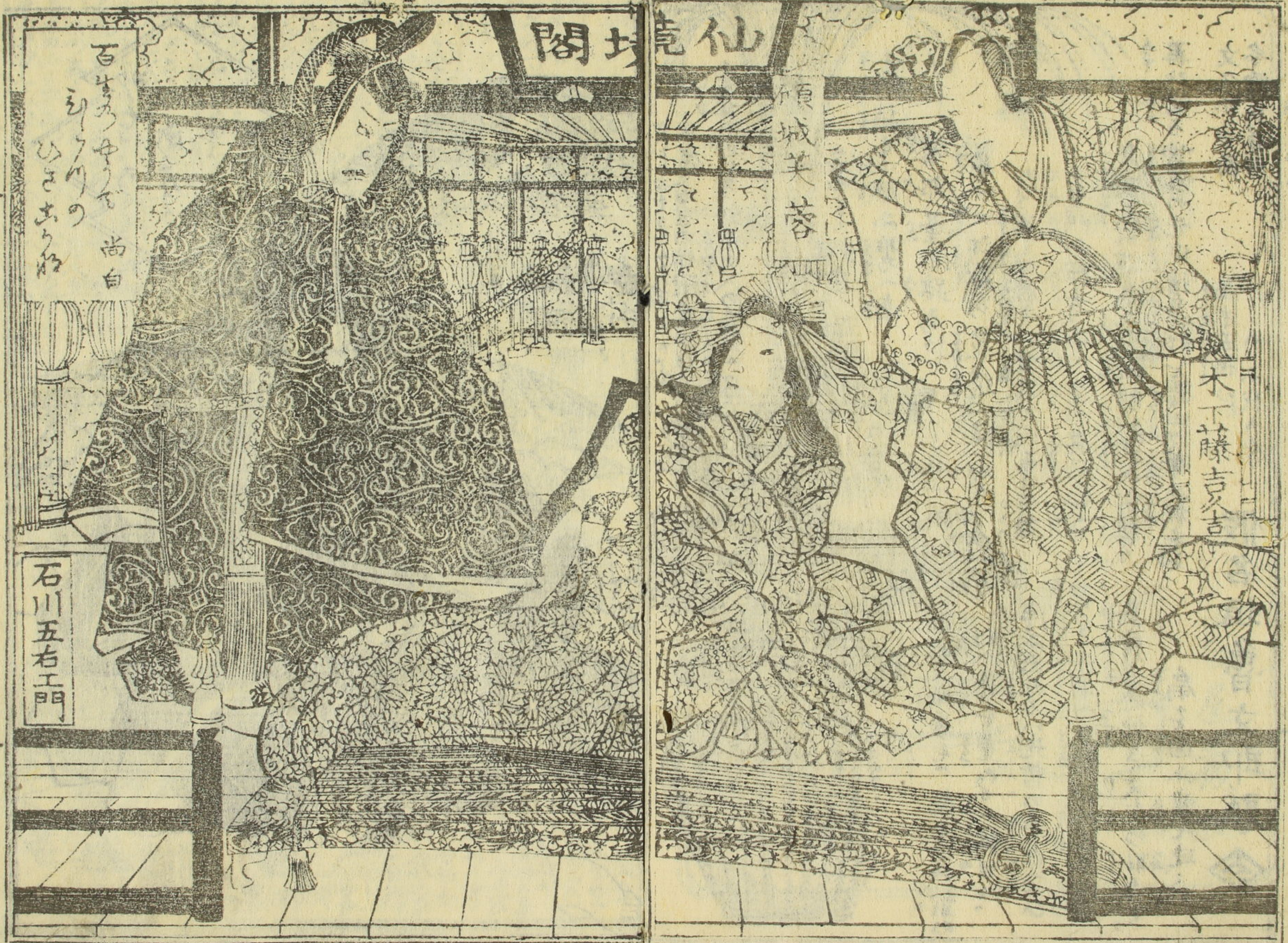
仙境閣

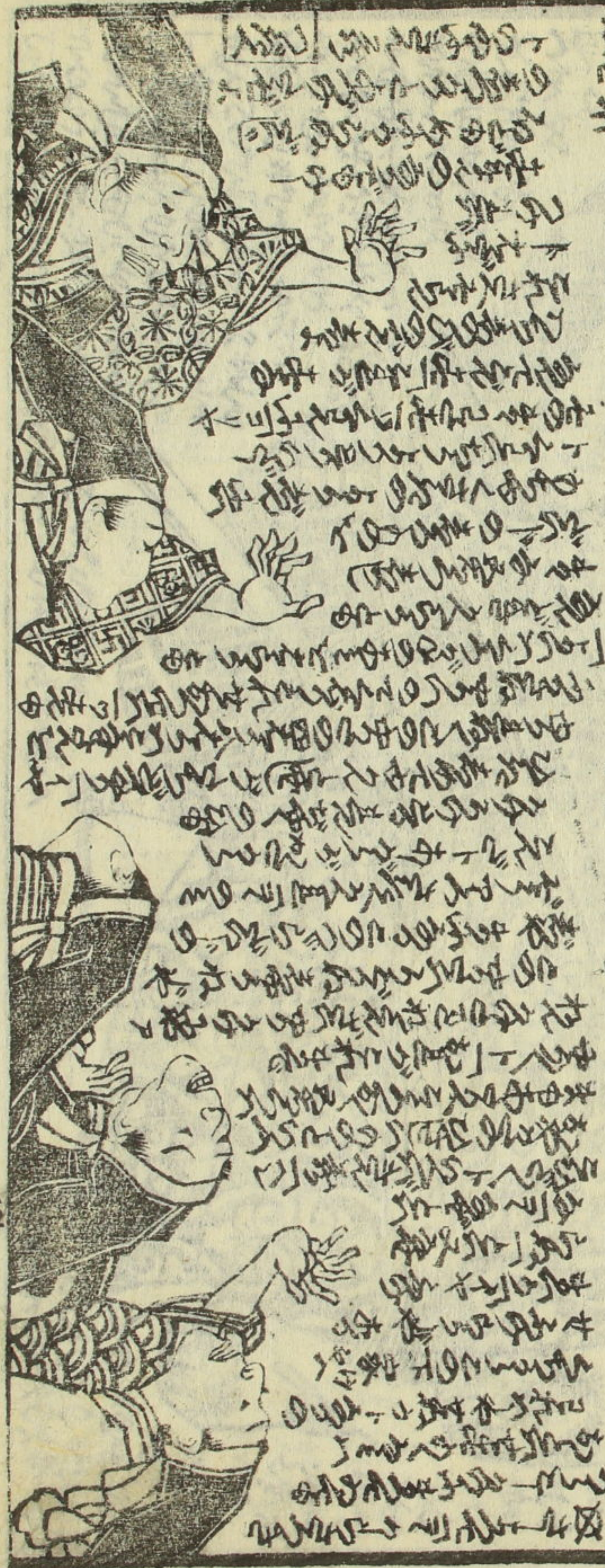
百生あやを 尚白
ひさあゆの

石川五右工門

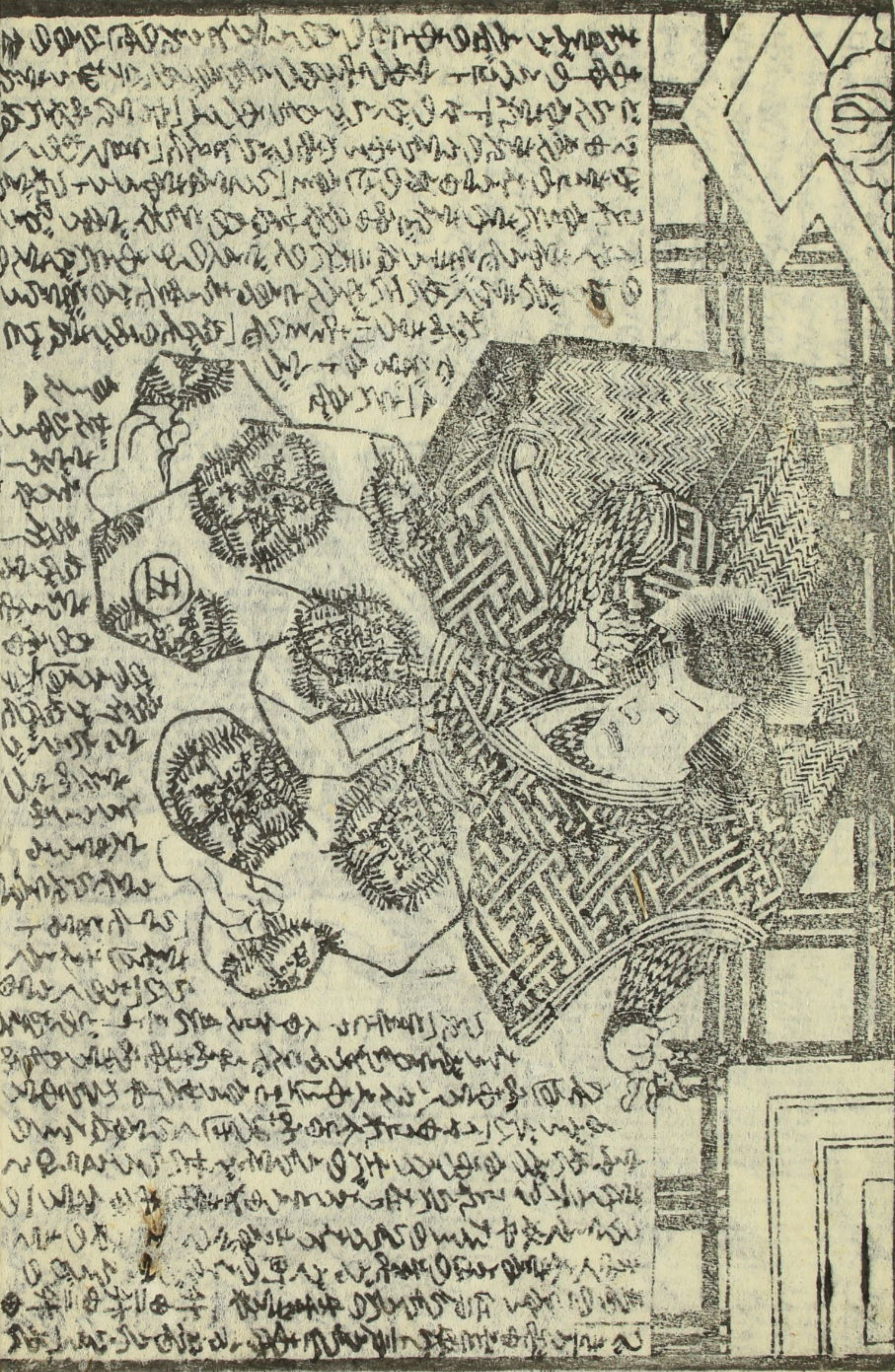
傾城芙蓉

木下藤吉公吉



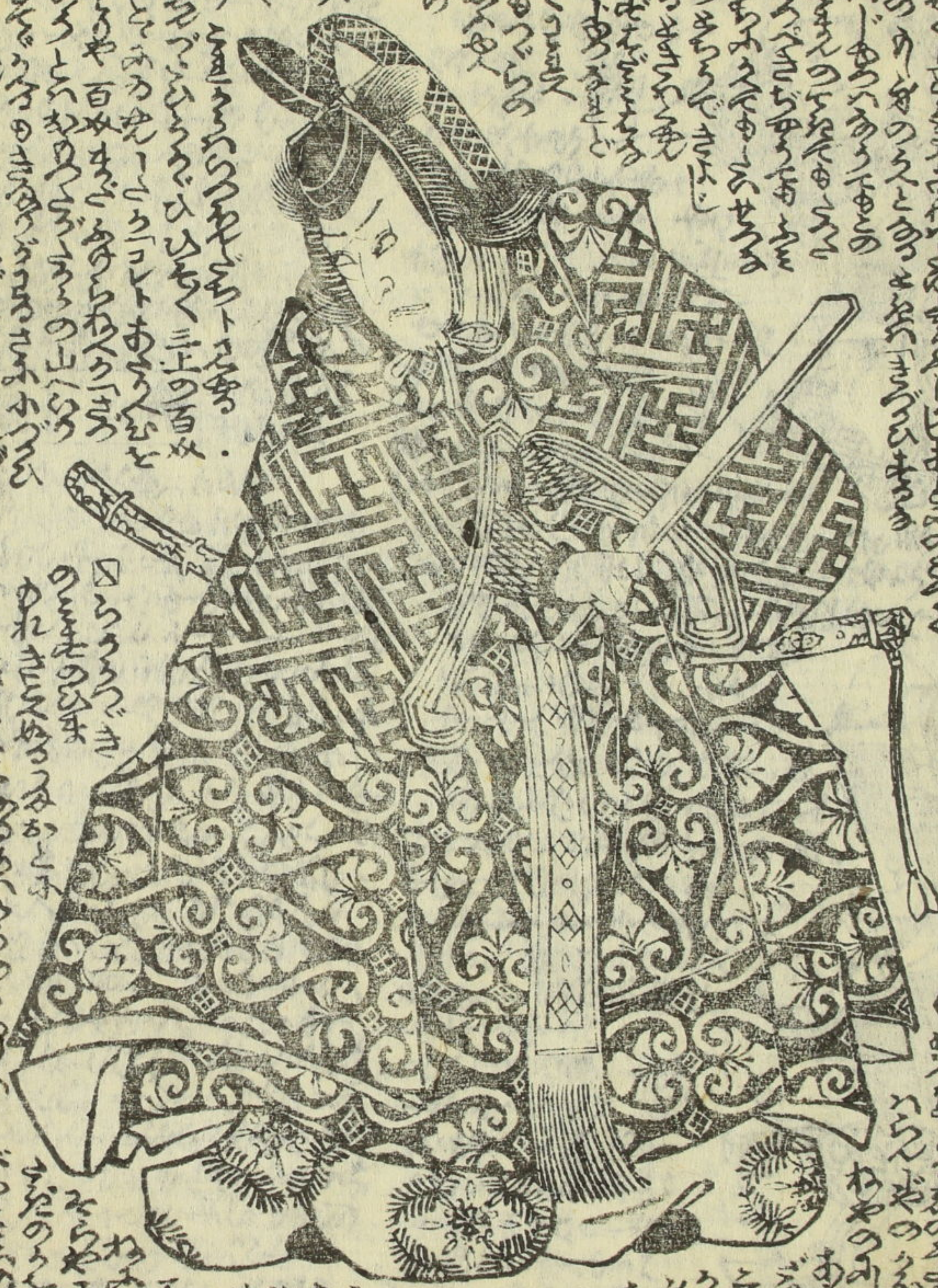


Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely Japanese. The text is densely packed and runs down the length of the page, interspersed with small decorative elements and a central rectangular box containing a character.



Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely Japanese. The text is densely packed and runs down the length of the page, interspersed with small decorative elements.

Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the right page.



Vertical columns of handwritten text at the bottom of the right page, continuing the script from the top.

Vertical columns of handwritten text on the left side of the top half of the page.



Vertical columns of handwritten text on the left side of the bottom half of the page, surrounding the illustration of the man.





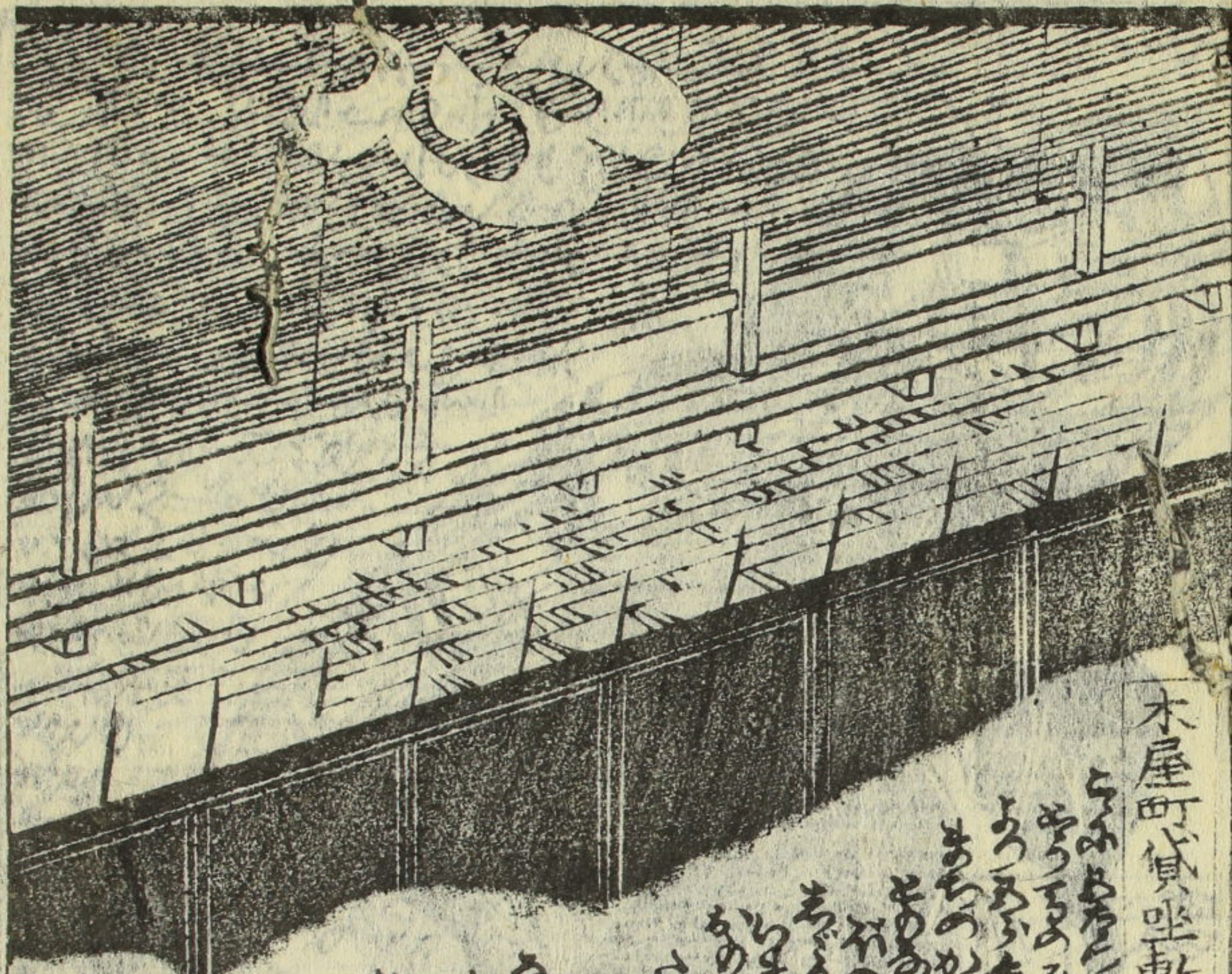
一孟齋芳虎画

錦橋堂
壽梓

^13
3774
4

下





木屋町貸座敷の場

木屋町は、江戸の中心地である。この町には、多くの貸座敷（賃貸住宅）があり、多くの人々が住んでいる。この町の特徴は、木造の建物が多いことである。また、この町には、多くの商店や飲食店があり、賑やかな町並みとなっている。

この町には、多くの名産品があり、多くの人々がこの町を訪れる。また、この町には、多くの文化施設があり、多くの人々がこの町を楽しむことができる。

この町は、江戸の歴史を伝える重要な場所である。この町には、多くの歴史的な建物があり、多くの人々がこの町を訪れる。また、この町には、多くの文化施設があり、多くの人々がこの町を楽しむことができる。

五三
 三
 二
 一

下乃
 春

保
 山田屋

新橋カセ
 はし

